

サンゴ植え付け 昨年200本

県内外の企業19社が参加しサンゴの再生に取り組む「チーム美らサンゴ」のメンバーが15日、県庁を訪れ、文化観光スポーツ部の嘉手苳孝夫部長らに昨年の活動を報告した。チーム美らサンゴのキャプテンで川崎重工業沖縄支社の小林文彦支社長は「サンゴの植え付けに多くの人が関心を持ってきており、楽しみながら活動できている」と伝えた。

去年は恩納村の海域で、地元ダイバーや漁協などの協力を得ながらサンゴを計約2千本植え付けた

という。参加者は年4回で計258人に上り、サンゴの天敵のオニヒトデの駆除や、サンゴが産卵する様子も観察した。2016年は白化現象が大規模に確認されたが、去年は生存率が比較的高かったという。

チーム美らサンゴ 258人参加

県文化観光スポーツ部の嘉手苳孝夫部長（手前左）らに活動を報告する「チーム美らサンゴ」のメンバー15日、県庁

